

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	17-048	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
<p>Variance in the Efficacy of Brief Interventions to Reduce Hazardous and Harmful Alcohol Consumption Between Injury and Noninjury Patients in Emergency Departments: A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials.</p> <p>救急部の外傷患者と非外傷患者における危険飲酒を減少させるための簡易介入の有効性の検討: 無作為化比較試験の系統的レビューとメタアナリシス</p>		
執筆者		
Elzerbi C, Donoghue K, Boniface S, Drummond C.		
掲載誌		
Ann Emerg Med. 2017 Nov;70(5):714-723.e14. doi:10.1016/j.annemergmed.2017.05.004.		
キーワード		PMID
飲酒、簡易介入、無作為化比較試験、系統的レビュー、メタアナリシス		28669555
要 旨		
<p>目的： 救急部における危険飲酒減少の簡易介入の有効性を検討した。</p> <p>方法： 2016年9月以前に発表された無作為化比較試験の系統的レビューおよびメタアナリシスを実施した。研究の質が高く、検討方法が類似した23のランダム化比較試験（分析対象者15,173名、16-64歳）を採用した。簡易介入は、スクリーニングおよび早期介入で、4セッション以下（1セッション45分以下）の対面指導やリーフレットの提供、電話での介入とした。危険飲酒および有害飲酒はそれぞれ、女性で日常の平均飲酒量が20-40g/日、>40g/日、男性で日常の平均飲酒量が40-60g/日、>60g/日と定義され、または標準的なスクリーニング法によって評価された。介入の有効性を検討するアウトカムは、5、6、12か月フォローアップ時点における、介入群と対照群の飲酒量の差とした。逆分散モデルにより、群間の標準化平均値の差を用いて治療の効果を測定した。</p> <p>結果： 6か月のフォローアップ時時点で、外傷患者に対する介入の有効性が確認された（標準化平均差: -0.10; 95%信頼区間 [CI]: -0.17 to 0.02; I²: 0%）。統合された非外傷患者においては、5か月以下の時点でわずかな介入の有効性が明らかとなった（標準化平均差: -0.15; 95%CI: -0.24 to -0.07; I²: 0%）。</p> <p>結論： メタアナリシスでは、外傷患者研究と比較して非外傷患者研究において介入に対する有効性が高かった。</p>		